

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光(株)		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Aユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57		
自己評価作成日	平成25年11月19日	評価結果市町村受理日	平成26年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●ドアを開けるとすぐに広い苑庭が広がっており、訪問者の目を引きまします。気候の良い時は、散歩や行事など雨の心配をせず、自由に行うことが出来ます。
●朝や出勤時は、利用者様お一人おひとりに、また、スタッフ同士笑顔で元気に挨拶することで、気持ちの良い一日がスタートします。利用者様に安心して、心穏やかに、楽しみのある暮らしをして頂く為に、家族や地域の方々の協力を得ながら、スタッフ全員で精一杯のサービスを実践したいと考えています。それは敬愛苑の基本理念である「人と人、心の和を大切に」の一步と考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商工会議所主催の「まちゼミ」の企画に場所の提供をしたり講師となり、介護に関する事を伝え地域の一人として参加や協力をしている。中学生の来訪で一緒にちぎり絵や合唱をしたり、くにびき学園の陶芸科の人による抹茶、菓子を取りながら三味線を聞く催しなど、地域の人との新たな交流も増えている。利用者会議を開催し意見・要望を聞く場を設けたり、日頃の関わりの中で生家、故郷、職場、足湯、毎月の天神祭などに出かける支援をしている。普段は食欲がない人でも、誕生月には好みの物や、行事食などを作り楽しめる工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はよく見えるところに掲示して、確認実践できるようにしている。また、新人職員には、入社時研修で説明をして意識を促し、実践できるようにしている。	開設時の思いを共有し、ユニット会議や日々のミーティングで話し合い、利用者の思いを受け止め、安心して過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に誘って頂いたり、近くのお店まで利用者の買い物と一緒に掛かけたりしている。商店会にも加入していて、空スペースは発表会や研修会等に利用して頂き、利用者も可能な限り参加させてもらって交流している。	事業所内のスペースを地域の人に提供し、講座や行事、踊りなどの場に活用して貰い利用者也参加して交流している。地域商店街の「力祭り」に出向き新たな交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ビルの4階に位置しているが、近隣の町内会や研修等に空スペースを開放している。災害時には一時避難所にもなっていて、有効利用してもらっている。また商工会議所主催の「まちゼミ」(年2回)にも参加している。介護でお困りの方、健康体操、車椅子の使い方など、希望される方に受講して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時にはサービス状況や事故の内容、その後の取り組み等を説明したり、行事等も報告している。参加者からの質疑、意見、要望等、意見交換しながら理解して頂けるよう取り組んでいる。家族の参加が少ないので、引き続き対応を考えていきたい。	地域の人々の参加が多く、敬老会や避難訓練と併せて行うことで積極的な助言を受けサービスに活かしている。利用者状況や事業所の取り組みを伝え活発な意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、連絡は必要以外取っていない。相談や報告をしたり、市や社協から依頼された内容についても出来る限り協力している。	主に運営推進会議で取り組みを伝え、意見、助言を貰っている。利用者の状況に合わせて必要な時に連絡、相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び職員も外部の研修に参加したり、苑内での研修を実施して、常にケアのあり方について検討している。	事業所内外の研修に参加し、ユニット会議で振り返り理解を深めている。夜間の転倒を予防するために複数の人感センサーを使用している人もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴言、暴力だけではなく、返事をしない、無視などの心理的虐待なども重視していて、相手の立場にたって考えることも常に指導している。また職員同士、お互いに注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は権利擁護事業の利用者がおられ、その都度勉強の機会を持つことが出来たが、現在はそれはない。身近な研修などには参加して、機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は退居を含めた説明を行い、理解、納得してもらった上で手続きをしている。利用者自身にも可能な限り説明して、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、普段から出来るだけ意見や言葉を出して頂けるようなケアの取り組みを行っている。家族にも来苑時に利用者の状況説明をしたり、気軽に意見や思いを伝えて頂きやすい関係作りに努めていて、ユニット会議等で反映させている。	利用者会議や敬老会に多数の家族参加があり意見、要望を受け止めている。機能低下について家族から相談を受け、希望に沿うようにリハビリ入院に繋げるなど、関係者と話し合いを重ねながら対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は日頃から職員と話しやすい関係作りに努力していて、会議や面談等で職員が意見を言いやすい雰囲気作りをしている。	管理者は現場の経験があり職員の意見、要望をすぐ改善に繋げている。利用者の重度化に伴い、入浴介助が二人体制になり職員の負担が軽減された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り現場に入り、職員個々の努力や勤務状況を把握するようにしている。休憩は場所や時間に配慮し、リラックスできる体制をとっている。また勤務管理をきちんとし、休日の確保や過重労働にならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数を踏まえた外部研修の機会や社内研修を計画し、技術やチームワークケアの向上に努力している。また資格取得のための勤務体制、休日確保なども協力し、その際には、事業所から助成金なども出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や研修等の活動には、管理者も職員も積極的に参加している。他グループホームからの見学や研修生も受け入れていて、機会がある時はこちらからも見学や研修に出掛けて交流し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するまでに、本人と直接面談し、本人の思いや要望、それまでの習慣などを聞く。当施設で安心して生活して頂く為に、職員全体でその情報を共有し、受け入れやすい態勢作りや関係作りが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始するまでに家族と面談し、思いや要望等に耳を傾け、どういったサービスが本人にとってベストなのか、家族が安心されるのかを探る。その為には、時には協力を仰いだりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の実情により、最も適した支援(サービス)は何かを見極め、場合によっては他事業所の説明紹介など行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の訴え等には、傾聴、共感し、本人の立場に立って考えてみる。そして、穏やかな生活ができるよう場面作りや声かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや電話、面会などで状況の報告や連絡、ニーズの把握などを行い、継続的な交流を図っている。家族ファイルを作成し、家族の思い等を(話されたことなど)記録し、職員全員で共通認識し、その後のケアに結び付けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会時には、居室やリビングで話して頂いている。友人の中には施設に入られた経緯を理解されず、家族や施設の意向を無視した内容の話を勝手にされ、本人を不穏にしたりする。その際は、家族と連携して対応している。外出は家族と行って頂いている。(一時帰宅、外食、買い物、美容院など)	故郷、生家、職場や天神祭りなどに行ったり、隣接しているデイサービスの利用者との関係が継続するように努めている。家族の協力を得て美容院へ行ったり、外食、一時帰宅をする人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い人同士、リビングや各々の部屋でお話しされたり、一緒に散歩されたり、共同作業(カラオケ、手伝い、作品作りなど)をして頂くことで交流を図っている。職員は、利用者間の仲の良さや様子を観察し、時には間に入り、関係がうまくいくよう図っている。リビングの座席には気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後入院となったり、他施設へ入居となった場合は、見舞いや面会に行っている。退居後死亡となった場合は、事情が許す限り、葬儀等に参列している。また相手から(本人、家族)相談等求められれば、応じる態勢はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が図れる方は、会話を通して希望や意向などを把握し、なるべく思いに添うように努めている。意思疎通が困難な方は、常に声かけし、本人の表情、態度(行動)等から裏にある思いを理解するよう努めている。	生活歴の把握や日常の会話や表情、仕草から思いを汲み取っている。食後や入浴時ゆっくり話を聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅、施設などに赴き、そこでの様子や環境を観察する。また、報告書や家族、ケアマネ等から情報を得ることで、これまでの暮らしを把握し、入所後のサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	傾聴、受容に努め、安定、安心して生活して頂けるよう努める。利用者が希望することは、可能な限り添うようにし、時には手助けを行う。一日をどう暮らしたいか、どういったことが好きか、どんなときにどんなことができるのか、一人ひとりの力や状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思い、意見を聞きながら、必要な場合は看護師、主治医の意見も聞き、職員で話し合い、その時に即したケアプランの見直し、作成を行っている。	利用者や家族との日常の関わりの中で意見、要望を聞いたり、関係者と話し合いプランを作成して現状に即した内容で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況、日々の生活、会話などを個別記録や日誌などに記録し、職員が常に情報を共有し確認できるようにしている。得た情報に基づき、介護計画の見直しを行っている。また、連絡ノートも作成し、情報の共有と徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族には毎月の苑便りや面会時、また電話で状況の報告や要望等を聞き、それに対して柔軟にサービスの提供に取り組むようにしている。併設のデイサービスに参加して頂いたり、ボランティアも受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市職員、中央包括支援センター職員、地域の関係者に参加して頂き、周辺情報や支援に関する情報交換や意見を頂きながら、協力関係を築くようにしている。ボランティアの訪問も積極的に取り入れたり、地域行事(祭りなど)にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人や家族がこれまでのかかりつけ医を希望される場合は、可能な限り、受診や往診などを行って頂いている。変更が可能な方は、既入所者のかかりつけ医に変更して頂き、適切な医療を受けて頂いている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医となっている。家族同行が困難な人や身体状況に合わせ協力医に変更する人もある。関係者と情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、昼夜を問わず利用者の体調観察や変化に気づき、看護師に報告、相談する。また、情報をスタッフ間でも共有するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。入院中は医療機関や家族から回復状況等の情報を得たり、相談したりしながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入所中の早い段階から、家族等に重度化した場合や医療行為が発生した場合、当施設でのケアは出来ないこと、及び終末期の看取りなどは行っていないことの説明をしている。また、重度化が予想された場合、早い段階に特養の申し込みを勧め、それまで出来る範囲でのケアを行っている。	入居時事業所の方針を伝えている。重度化に伴い家族や関係者と話し合い対応をしている。施設入所の順番が来た人で身体状況が改善し事業所の生活を継続する人もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故対策マニュアル等で、全職員が勉強(社内研修)し、常に頭において行動している。消防署で行われている応急手当の講習会に参加し、その後、その職員より全員が講習を受けるようにしている。またAEDも設置し、研修を受け、急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と定期的に社内研修を行い、全職員が危機管理を身に付けている。原子力火災のマニュアルも作成している。近隣における災害時の第一避難場所に指定されている。	消防署立会いの避難訓練やビル管理者による研修に参加している。火元に応じ避難場所の確認を行い、運営推進会議に参加した家族や地域の人に事業所内の様子を見て貰い理解に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の思いや人格を尊重した声かけを意識している。馴れ馴れしい言葉遣いや振る舞いをしないようにしている。入室時にはノックをしたり、必ず声をかけたり、排泄時にはトイレのドアを閉めて介助等するなど気をつけている。	一人ひとりの気持ちの把握や職員間で情報の共有を行い、日々ケアを振り返りながら対応している。トイレの音がけも周りの人にわからないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に思いや希望を話すことが出来る環境作りや話しやすい関係作りに努めている。そして、知り得た思いや希望については、出来る限り支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、当施設の生活リズムに添った暮らしをして頂いているが、その日の体調や本人の希望に応じて、個々のペースで一人ひとりに合った過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服はなるべく本人に決めて頂いている。整容（整髪やひげそり）も乱れがないように気をつけている。髪が伸びた際には、職員（美容師、理容師）が速やかにカットを行っている。髪型も本人の希望に添った、その方に似合った髪形にセットし、喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話を楽しみながら、食事の下ごしらえやお膳拭きなどを手伝って頂いている。行事に餃子作りなどを計画し、一緒に作り、その日のメニューにしたりしている。利用者に食べたいものを聞き、メニューに取り入れたり、その日のメニューが好きではない物だった場合は、違うメニューに変えて提供したりしている。	テレビを見たり会話の中から食べたい物を知り、希望に柔軟に対応している。利用者の出来る方法と一緒に作ることもある。誕生日の希望メニューで寿司屋に出かけたり、食べ慣れていた弁当なども取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、一日の摂取量を把握し、気を配っている。水分量が少ない方には、声をかけたり、ペットボトルに水を入れて居室に置く等して、水分を多く摂取して頂くよう援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所や自席にて口腔ケアをしている。出来る方は自分で行って頂くが、そうでない方は介助している。歯ブラシもその方に合った歯ブラシを使って頂いている。週2回は入れ歯の消毒洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し、定時誘導を行い、且つ、それ以外でも排泄の様子が見受けられたり、本人申出時には誘導している。自己尊重に従い支援することにより、オムツ、パットの減少につながり努力を行っている。	排泄パターンを把握し、定期的に誘導してトイレで排泄が出来るように支援している。利用者の仕草を見て支援した事で、立ち上がりや歩行が出来るようになった人もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を作成し、毎日の排泄状況を観察し、便秘にならないよう、牛乳、繊維のある食物を摂取し、運動や腹部マッサージ等なるべく自力排便が出来るように支援している。しかし、それでも出ない場合は下剤や座薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を確認し、その日の体調観察を行い、傍で見守ったり、必要な方は介助し、会話を楽しみながらゆっくりと入浴して頂いている。以前は夜入浴される方もあったが、現在は希望される方はなく、全員日中に入浴して頂いている。入浴頻度も各利用者の希望に添って入浴して頂いている。(1回/2~3日)	回数と時間は決まっているが、浴槽でゆっくりと満足出来るように支援している。利用者の身体状況に合わせて二人介助での支援や、声かけの工夫をしながら取り組んで、利用者の笑顔を引き出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、利用者が日中休みたと言われる時は、休んで頂くようにしている。また、夜間の睡眠状況や体調等に合わせ、様子を観察しながら休息をとって頂いている。夜間安眠が出来るよう、日中散歩やレク活動を行い、適度に体を動かして頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイル、薬剤早見表を作成し、全職員が薬の内容を把握し、服薬時の誤薬がないよう、職員二人で確認後服用して頂く。状態変化時は、詳細な記録をとり、看護師を中心に主治医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮して頂けるよう、出来そうな仕事をしてもらっている。(洗濯物干し、たたみ、清掃、お膳拭き、調理の下ごしらえ、新聞折り、塗り絵、作品作りなど)季節感が味わえるような行事を考え、楽しんで頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの習慣や希望、その時の話題に合わせて、散歩やお寺参り、買い物、足湯、ドライブ等に出来る限り出て頂くよう支援している。行事でも、季節に合わせた外出(花見、紅葉見など)計画を立て、全員が出掛けるようにしている。家族の協力も得て、自宅への一時帰宅や美容院、外食なども行って頂いている。	事業所周りは車の通りが激しく一人での外出は危険なので、安全を考えエレベーターは操作が必要になっている。外出は職員と共に希望に沿えるようにしている。個別外出など家族の協力も得て取り組んでいる。	引き続き、利用者の思いに沿うように、五感を大切に外出支援を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、買い物、飲食等自分で理解し、出来る方にはお金を所持して頂き、自分で支払って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などに本人が電話をかけたいと言われた場合は、家族等の意向を聞きながら、出来る限りかけて頂いている。手紙を出したいと言われた時は自由に出して頂き、一緒に投函に出掛けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は、季節感を出す飾りをしたり、写真入りの壁新聞や利用者の作成物(壁紙、塗り絵、書き物)などを貼り出し、心地よく、穏やかに生活できるような工夫をしている。浴室、トイレはいつでも誰が使用されても良いよう、常に清潔に保ち、温度にも気をつけている。	所々に季節を感じる作品や花などがある。前月の事業所内での行事の様子や外出時の写真を掲示し利用者は自分の姿を見て楽しんでいる。ホールで安定した姿勢で過ごすために家族と話し合い椅子の工夫をしている人もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、ユニット内にはソファ、苑庭にはベンチ、ラウンジにはテーブルと椅子を置き、一人でのんびりと過ごしたり、気分転換を図ったり、気の合う仲間同士が会話できる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具、写真、思い出の品々を出来る限り持ち込んで頂き、それぞれの利用者にとって居心地の良い場所になるよう配慮している。	利用者や家族の思いで人形や本、机、ダンス、裁縫箱、椅子、仏壇などがある。ベッドの頭元に大切な物を並べ、入居前の生活習慣と同じように過ごしている人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に出来るだけ自立した生活を送って頂くよう、状態に合わせて環境整備に努めている。利用者の状態が変わった時は、その都度話し合い、支援を行っている。		